

おうみ未来塾

— 561日で見つけたローカルの可能性 —



第15期生成果報告書



そら湖
diary





2018年6月9日、
世代も出身も異なる23人がひとつの目的のために集まりました。
それが、おうみ未来塾 第15期生です。

本誌は入塾から卒塾までの活動をつぶさに記録した「活動誌」です。

思い返すと、思い悩んで苦しんで…それでも、「滋賀のことが好きだから」
熱く活動した記録を宜しければご覧ください。

2020年2月 おうみ未来塾15期生編集委員

もくじ

皆様からのメッセージ

塾長・アドバイザー……………	P 2
事務局……………	P 4
各グループでお世話になった皆様…	P 9

これまでのあゆみ

【基礎実践コース】……………	P 6
【サブ講座】……………	P 8
発表、そして卒業へ……………	P40

そら湖diary …………… P10

わたしたちのグループは、守山市の赤野井湾を中心にびわ湖の環境活動に注目して活動を行ってきました。

その中で、びわ湖の環境を考えるためには、そこに注ぎ込む川の上流にさかのぼり考えていく必要があると考えました。川の上流、中流、下流にはそれぞれの暮らしがあって、活動している人たちがいます。その人たちをつなぐ場作りができればと考えています！



ござっと！…………… P20

チーム名は、いつでもどんなところでもゴザ1枚あれば、そこが集いの場になるという想いのもとに「ござっと！」と名付けました。「寺おこしで町おこし」をテーマに、彦根市亀山地区の「光雲寺」を舞台にして、子育て中の親や子どもたちの集いの場となるような活動を行ないました。



甲賀☆ムラづくりLABO…P30

農業活動をベースに、甲賀地域を活動拠点にしてグループ活動をしています。

若者視点の「いそお活性化計画」、移住者視点の「循環型農業プロジェクト」、そして地元目線で甲賀地域を発信する「甲賀まるっとラジオ」の三本柱で活動を進めています。



卒塾に寄せて

地域プロデュースの場を選ぶ

おうみ未来塾長 北村 裕明



おうみ未来塾のグループ活動では、どのような政策課題を選ぶかとともに、どの場所や地域でその政策を実践するかも重要です。

「甲賀☆ムラづくりLABO」は、旧甲南町の磯尾地区を最初の手がかりに、山伏と忍者の歴史と文化を有する地域の課題と資源の発見に取り組みました。そして、植樹会、いそおde交流会、甲賀まるっとラジオ等の地域での事業を積み重ねてきました。「ござっと!」は、彦根市の亀山学区で子育て中のお母さん方を支援できる政策を考えながら、学区内の光雲寺というお寺に着目し、そこを拠点とした事業を行いました。お寺でマルシェ、寺ヨガと裏山の自然遊びという二つのよく準備された事業を実施する中で、地域社会におけるお寺の役割について新たな光を投げかけることができました。「そら湖diary」は、守山市を中心に環境学習の実際を調査しつつ、野洲川を上流からびわ湖につなぐ流域に注目し活動を展開しようとしてしました。流域を、食でつなぎ語り合うフードキャバンは、流域単位で水環境を考え政策化することの重要性を参加者が改めて気づく機会となりました。

地域をプロデュースするには、まず地域の課題を発見し、それに対する政策と政策を実施する場所を検討し、具体的な事業に落とし込みながら事業を実施することから始まります。場所や地域が特定される過程で、事業計画が具体化されるのです。そして、事業を実施しながら、地域の人々にどの程度事業に関わっていただけたのか、当該事業を地域の人々がどのような評価したのかを振り返り、当該政策を深める、あるいは政策の幅を広げてゆくという、地域プロデュースの次の段階に進むのです。

卒塾生のみなさんが、未来塾でのこのような経験を、これからの活動に生かされることを期待します。



チームで創りだす、それがおうみ未来塾 “地域”プロデューサーの魅力です。

おうみ未来塾アドバイザー
藤井 絢子



第15期生、ご卒業おめでとうございます。

未来塾がスタートして20年。この間に地球環境の状況が大きく変化しました。当時は地球環境容量への心配・地域の持続可能性への懸念を意識する市民は本当に限られていました。

琵琶湖も1970年代後半の富栄養化の危機を脱し、市民の琵琶湖に寄せる関心はどんどん薄れていったと思います。

でも実際は、琵琶湖周辺の森・里・川（流域）・湖 あらゆる場面で病が進行しています。だから市民一人ひとりが主体者となって動くことがとても重要です。

未来塾では、多様な個性をもった人たちがチームを形成し、多様な視点・ノウハウを駆使し地域をプロデュースすることをめざして来ました。

15期生の皆さんも、共に学び、議論し、悩みながらも、結果的には、自らが想像した以上の眠っていた可能性を引き出せたと思います。

これまでも伝えてきたことがあります。

“地域”の魅力に気づき、どれだけ惚れ込み、可能性をつなげる事ができたかどうかは、チームの力、チームメンバー個々の持ち味を引き出せたかどうかで、差が出たのでしょうか。少なくとも、一人の能力によるのではなく、チームの仲間とともに動く事、自分の内なる能力の見えない部分も発見があったと思います。それが、チームで創りだす、おうみ未来塾“地域”プロデューサーの魅力です。

アドバイザー藤井は、今スウェーデンの16才の環境活動家グレタ・トゥーンベリにどう応えるかを、自らに課しています。（皆さんにも共感いただけたらうれしい）

2019年9月国連気候行動サミットで、“大人”に対し、「私たちの夢・子供時代を奪ったあなたたち、温暖化対策に本気で取り組まなければ、あなたたちを許さない」と迫った言葉が胸につきささっています。気候変動と、私たち“大人”が生み出した広範な環境危機に対処するのに、十分な努力をしていないと思うからです。

琵琶湖は小宇宙。しんどさだけでなく、この地域で、地域プロデュース出来る幸せ・楽しさを感じ、共に未来塾で学んだ事をベースに更に一步！を期待します。

侮るなかれ“地域”

おうみ未来塾アドバイザー
法政大学名誉教授
岡崎 昌之



空海が伝えた經典に「無量の衆生の種々の善根を平等に開発（かいほつ）する」という言葉があります。

「無量の衆生」とは「世の中の生きとし生けるもの全て」、「種々の善根」とはそれらが持つ「様々な良さや個性」、「平等に開発」とは「本人が気づいていないものまでも、切り拓いて気づかせること」という意味だそうです。つまり空海が考えた「開発」とは「生きとし生けるもの全てのもつ、様々な良さや個性、可能性を、切り拓いて見出し、確認することだ」ということです。

「地域開発」という言葉もあります。日本の高度経済成長期には、この言葉のもとに、ゴルフ場やスキー場、大都市郊外の住宅団地、沿岸部の工業地帯で、画一的な“地域開発”が行われ、自然環境破壊や個性のない町になってしまったと、やや批判的に「地域開発」は取られてしまいました。

しかし空海の伝えた「開発」に立ち返ると、今回、15期生の皆さんが、それぞれの地域で取り組まれたことこそが、本来の意味の「地域開発」といえます。つまりそれぞれの地域に深く関わり、その地域の文化や歴史、そこに住む皆さんの営みや生活の技等々にふれ、それを基盤にして、地域の課題を解決されようとしたことです。

ただ淡海の地には、それぞれの集落ごとに、数百年あるいは千年をこえる人々の営みが、地層のように刻まれています。甲賀ムラづくり、そら湖diary、ござっとと、それぞれのグループが今後も活動を継続したいという意向を表明されました。活動の継続とは、とりもなおさずこの黒々とした地域の地層の一枚一枚と対面、対決することで、そのなかからまた新たな地域像が表れてきます。地域は奥深く、様々な側面を持ちます。侮るなかれ地域、です。

今後の皆様のご活躍に期待します。



卒塾に寄せて

卒業おめでとうございます！

淡海ネットワークセンター

事務局長
東 登志也



おうみ未来塾第15期生の皆さん、卒塾おめでとうございます。

1年半にわたる活動、本当にお疲れさまでした。入塾されたときの夢はどれだけ形になったでしょうか。未来塾の活動を通して、その夢は大きく膨らんだり、中には大きく変化した方もおられるのではないのでしょうか。

今、人口減少と少子高齢化の進行に伴い、滋賀県も大きく社会状況が変わってきています。特に、地域のコミュニティに変化が顕著に表れ、人と人のつながりも希薄化してきています。琵琶湖をはじめとする環境も大きく変わってきています。このような複雑・多様化する地域課題にきめ細かく対応するためには、企業や行政だけでなく、市民活動やNPOなどが、その特性を活かして共通の目標の達成に向かって取り組む「多様な主体による協働」が重要となっています。卒塾された皆さんには、このような地域課題解決を担う主体として、その活躍が期待されています。

皆さんには、いよいよ地域プロデューサーとしての第一歩を踏み出されることとなりますが、どうか未来塾で培った熱い想いと財産をもとにご活躍ください。

これからの活動においては、なかなか思い通りにはいかないこともあると思います。失敗もあると思います。「一度も失敗をしたことがない人は、何も新しいことに挑戦したことがない人である」、これはアルバート・アインシュタインの言葉ですが、失敗を恐れず、ぜひいろんなことにチャレンジしてください。

また、夢を叶えるには一人ではできません。ぜひ同じ夢を持つ仲間を一人でも多くつくってください。そして活動を楽しんでください。

私どもも皆さんの活動を応援してまいります。こういう活動をやっています、こんなことで困っています、そのようなことがあれば遠慮なく言ってきてください。

皆さまの今後ますますのご活躍を心からお祈りしています。



おうみ未来塾生の輪をひろげ、 輝く未来に向けて動き出そう！

淡海ネットワークセンター
事務次長
澤 孝彦



おうみ未来塾第15期生のみなさん、ご卒塾おめでとうございます。

一年半余りの未来塾は終わりましたね。いかがでしたか？同期のみなさんと楽しく学び、行動することはできましたか？

新しい自分との出会い、またこれまで知らなかった人との出会い、それぞれにたくさんの学びがあったのではないかと思います。

このおうみ未来塾の一番のよさは、いろんな人とのネットワークが新しく生まれることだと思っています。住んでいる地域も育った環境も年代も違う人たちと共に行動する期間は、けっして楽しいことばかりではありませんが、一つの目標に向かって進んでいく過程においては、仕事や家庭の中では味わえない喜びや新しさがあります。

私たちを取り囲む地域社会の状況は、少子高齢化が深刻な問題になり、コミュニティも希薄化しつつありますが、このような時代だからこそ、新しい地域課題に取り組む魅力ある地域プロデューサーの活躍が期待される場所でもあります。

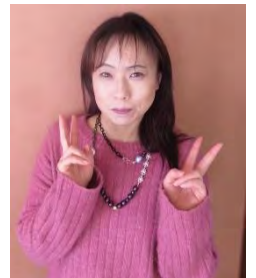
地域づくりはあくまで一つひとつの積み重ねであります。地域づくりの目標、目的に向かって話し合い行動したかというそのプロセスが一番重要であると思います。そのプロセスが充実していれば、必然と成果につながり、それが地域に波及していくでしょう。

15期生の皆さんを入れて、おうみ未来塾の卒塾生は342名になりました。多くのみなさんにつながり、ますますおうみ未来塾の輪を広げていただきたいと思います。

おうみ未来塾との出会いを今後も励みにしていただき、健康に一番気をつけられて、更なるご活躍をご期待申し上げます。

15期の強みは「仲間」！

淡海ネットワークセンター
事務局
青木 恵美子



15期のみなさん、ご卒塾おめでとうございます。この19ヵ月間、お疲れさまでした。

「地域に入り、課題を掘り出し、解決に導く」。地域に入るとは？地域プロデューサーとは？そこから始まった15期でした。みなさんにとってどのような時間、学び、経験があったのでしょうか？入塾当初に目ざしていたもの、探していたものは見つかりましたか？

たくさんのことに悩み、幾度もの壁にぶち当たることもありましたが、みんなで解決策を出し合って乗り越えてこられた姿、また、そんな中でもいつも前向きで目を輝かせて活動されている姿には勇気づけられました。入塾の出会いから19ヵ月間で太く強い絆が生まれたことでしょう。人生において一緒に悩み、相談にのってくれる「仲間」、大切ですね。みなさんには、卒塾してもずっと寄り添ってくれる仲間がいます。大切な存在です。

「地域プロデューサーとは？」の答えは、地域によっても、また人それぞれ違う深い問いであり、みなさんで悩みながら実際の現場、活動からその具体性を探ってこられました。まさしく「おうみ未来塾」での学びの一つだと思います。

日々の生活の中で、また、地域活動をされる中で「おうみ未来塾」での絆、学び、経験を大きな宝としてこれからの歩みに活かされ、卒塾後も3グループが活動継続という過去にない歴史を刻まれることを期待しております。青木はいつも応援しています。

お疲れさまでした。そして、ありがとう。



これまでのあゆみ

【基礎実践コース】

本講座第1回 2018/7/8

大野木長寿村まちづくり会 代表 清水 清一さん・副代表 藤田 博さん
北村 裕明 塾長



初めてのフィールドワークで「地域プロデューサー」像とその実践を学びました。
台風明けの暑い日になりましたが、地域の方がつくる昼食をいただきながら、大野木で行われていることをつぶさに見学しました。

本講座第2回 2018/8/5

八幡山の景観を良くする会 代表 村西 耕爾さん
岡崎 昌之 アドバイザー



八幡山の景観について、講義を受けた後に実地に視察に行き、竹林の現状を確認しました。その後、岡崎アドバイザーから話をいただき、八幡堀を視察しました。

本講座第3回 2018/9/29

沖島漁業協同組合長 奥村 繁さん

沖島町離島振興推進協議会 奥村 ひとみさん、富田 雅美さん、小川 文子さん

油藤商事株式会社 専務取締役 青山 裕史さん

藤井 絢子 アドバイザー



日本唯一の淡水湖に浮かぶ有人島である沖島で、持続可能な島の活動を青山さんや島の皆さんからお聞きました。
沖島弁当をいただいた後、台風の近づく沖島をぐるりと見て回りました。

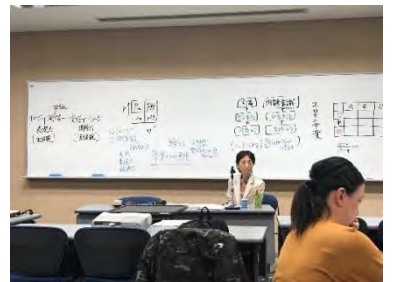
本講座第4回 2018/10/27

元 NPO法人パートナーシップ

サポートセンター代表理事

岸田 眞代さん

前アドバイザーを務められていた岸田さんから、リーダーシップと周囲との合意形成について、OJT形式で学びました。



本講座第5回 2018/11/11

「おうみこっとな夢つむぎ」第10期卒塾生・澤 とし江さん、北川 久和さん

7期卒塾生・藤田 知丈さん



10期卒業生の澤さん、北川さんから、「おうみこっとな夢つむぎ」の活動をお聞きし、実際に綿の畑を視察しました。
その後、7期卒業生の藤田さんより、地域プロデューサーとしての心得を教えてくださいました。

【サブ講座】

第1回 2018/7/8

塾生・加藤 洋 さん

15期の塾生であり、Facebookに造詣のある加藤さんにFacebookを教えていただきながら、15期生のページを立ち上げました。



第2回 2018/7/25

12期生・川崎 慶介 さん、中井 あけみ さん、藤岡 いづみさん

これからどういう活動をしていこうかと考えた時に、未来塾の先輩である12期生の3名に経験談を伺いました。



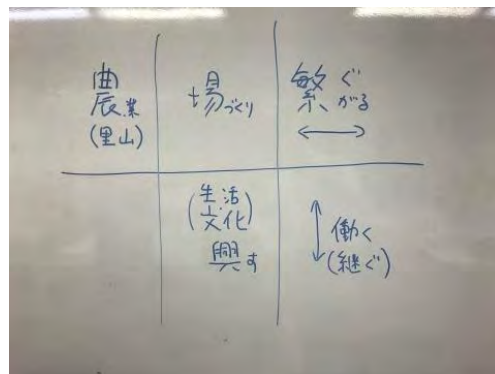
第3回 2018/9/15

12月の創造実践コースでのグループ形成を踏まえて、塾生同士が意見や考えを出し合い、相互理解を深めました。



第4回 2018/10/10

第3回に続き、グループ形成に向けて、キーワードを出し、自分のやりたいことを発表し、その内容の落とし込みを行いました。



第5回 2018/11/24

「白鳥川の景観を良くする会」代表 吉田 栄治 さん

活動を通じて、体験したことを吉田さんに講演いただきました。「桜ぼんぼり」は15期生として寄付し、帰りに白鳥川沿いを歩きました。



第6回 2018/12/8

創造実践コースのグループ形成とテーマを決めました。今後の進め方について、時間をかけて熱い議論を交わしました。



第7回 2019/1/20

office musubime 代表 河合 将生 さん

グループ形成してヒアリングを進める各グループが作成した活動計画書に対し、河合さんからアドバイスをいただき、ブラッシュアップを進めました。



各グループでお世話になった皆様

そら湖diary

総合地球環境学研究所
栄養循環プロジェクト
石橋 弘之 様



現在、関わっている栄養循環プロジェクトそのものは今年度で終了なのですが、その終了後も、流域の上流から下流で地域活動に取り組む皆さんが交流したり連携する流れができればと思っています。

いずれにしても、流域各地の地域で活動するに皆さんの取りみがあってのことだと思いますので、そうしたなかで、地域ごとの取り組みをつなぐ場づくりをしようとする皆さんの取り組みを聞いたときは心強く感じました。

着目点が似ていることや、偶然の出会いにも驚きましたが、今後の皆さんの取り組みを楽しみにしています。

ござっと！

臨済宗妙心寺派
金鶏山光雲寺
住職 小西 領也 様



ござっとのメンバーと出会い、さて何をしようという一からの出発でしたが、話し合いを重ねて第一弾に実施したマルシェも80名ほど来山があり楽しい時間を過ごせました。

第二弾のイベントは『親子』を対象とした企画でした。英会話を交えた自然遊びでは子供達がとても楽しそうで、遊び足りなかったのか、再度山へ遊びに行く姿がとても印象的でした。私が子供の頃は茂賀山で秘密基地作りや探検したりと、とにかく外で遊ぶ事がメインでしたが、年月は流れて、時代の移り変わりや子供達の遊び方にも変化があり山遊びをしてる子供はいつの間にか居なくなっていました。

今回、山の上から子供達の楽しそうな声がすると私は何処か懐かしい気持ちになりました。幼くても自然に触れることで不思議な感覚があり、大人になった際に命の尊さを感じるものでありますから、子供達はきっと良き成長を遂げていけると私は思います。お寺ではヨガと坐禅で、とてもリフレッシュされており、時間に囚われないひと時を過ごされていたと思いますし、特に禅寺でしか行なえない坐禅は、皆今回が初という事でとても貴重な経験が出来たのではと感じています。なかなか身近に坐禅が出来るお寺は無いので、指導する側の私自身も坐禅の素晴らしさをほんの少しでも知ってもらえた事で、禅宗の僧侶として喜びを感じました。

当日を迎えるまで色々と課題や反省点があり、バタバタとしてはおりましたが、ござっと！のメンバーのご協力があり、光雲寺としても地域に深く貢献出来た一日になりましたので、とても感謝しております。

参加して頂いた人々が、あのお寺でこんな体験をした、楽しかった等、月日が経ってもそんな風に心に残っていくといいなと思います。

今年だけで100名以上の方がお寺に来山され私自身嬉しい限りでしたし、ござっとのメンバーとの出会いに感謝し、今後も良き関係を築いていければと思います。

甲賀☆ムラづくり LABO

磯尾村づくりの会 滝 菅雄様
山伏の里 野路 滝 人代様



磯尾は人口減少が大きく、子供の数も大変少なく、何とかしなければ集落の存続すら難しいことから、磯尾村おこしの会が発足しました。コンセプトとして、忍者のルーツとも言える山伏の里を原点として、忍者や山伏が見たであろう景色を再発見し、追体験出来る村づくりを目指すとしています。

現在会員は9名ですが、まず磯尾を美しくしようと、自分の土地の草刈り等を行っています。又、岩附神社は磯尾の氏神様で有る為、周辺を整備し、植樹をしました。

甲賀☆ムラづくりLABOとの出会いこの植樹の前でした。植樹には、FM滋賀パーソナリティの井上麻子さんにも来ていただき、第二の忍者屋敷と言われる「東雲舎」にも行かれて、昨年3月29日にはFM滋賀で喋っていただき喜んでいました。

又、岩附神社の祭りや夏のバーベキューなどにも磯尾村おこしの会と一緒に参加され、大変元気なメンバーとの多くの交流が私達に元気を与えて下さいました。

本当にありがとうございました。



おうみ未来塾15期 そら湖diaryチーム 活動報告書



①そら湖diary メンバー紹介

代表 北村真理子（きたむらまりこ）

いままで守山で築き上げてきたネットワークを活かしたい

副代表 工藤由美子（くどうゆみこ）

高齢者の居場所を作り、稼げるビジネスモデルを作りたい

副代表 上田敏司（うえだとしじ）

ファシリテーションスキル。ドローンによる空撮を行う

会計 山内健（やまのうちつよし）

農業を事業のフィールドに見据える。みらい塾ではネットワークを築きたい

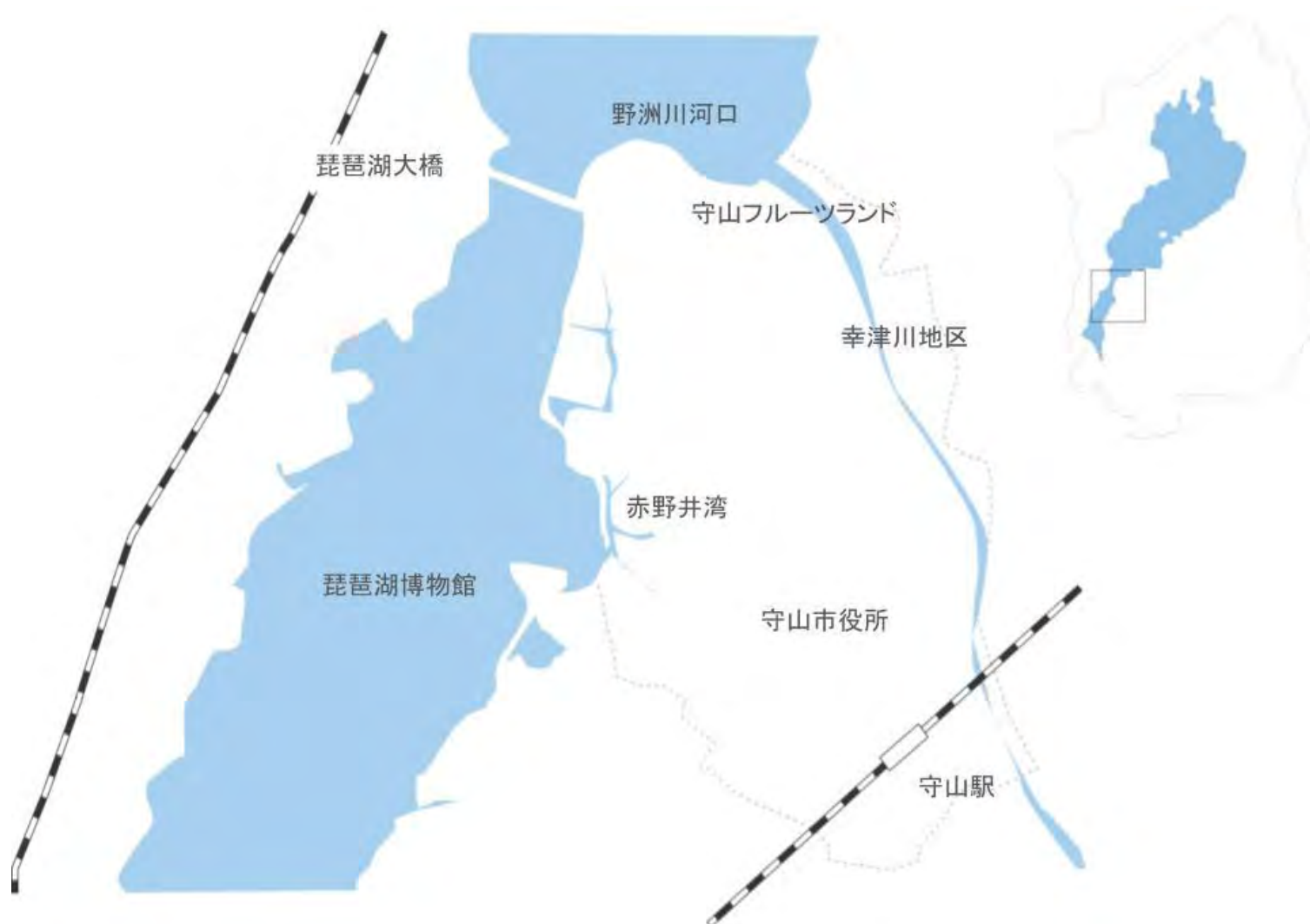
広報／FB 國本生子（くにもといくこ）

趣味でも遊びでもないやりがいのある取り組みをしたい

編集委員／FB 加藤洋（かとうひろし）

事業承継と教育に興味あり。情報発信をお手伝いしたい

②活動エリア



湖南エリア（守山市、草津市、野洲市）

私たち「そら湖diary」は、湖南エリアと県外に在住するメンバーで構成されチームです。チーム結成後に守山市のびわ湖沿い。赤野井湾、野洲川河口域を中心にフィールドワークを行いました。

③そら湖diaryとは？

1.ミッション

びわ湖を舞台にした環境学習を通して、人と人が繋がるきっかけを作る

2.当初の目的

守山の取り組みを中心に滋賀県で行われている環境学習活動の内容を全国に発信。

新たな活動で未来につなげる

→発信するだけでは主体的な活動と言えない

3.活動を通して変化した現在の目的

野洲川上流からびわ湖までの「恵み」を生み出す人々の取り組みを語り合い、知ることによって「つながり」を醸成するようなフードキャラバンを行う

→びわ湖の恵みフードキャラバン

④グループ開始からこれまでの経緯

1.守山市を中心にフィールドワーク

環境学習が活発な守山市を中心にフィールドワークを行い、すでに活動している環境NPOなどにヒアリングを行う。NPOの高齢化や情報発信に課題があると仮説を立てる。

2.環境活動が活発に行われている赤野井湾で清掃活動などに参加

守山市を中心にヒアリングを行い、環境活動が活発に行われている琵琶湖の赤野井湾の存在を知る。湖上からの観察や環境NPOの清掃活動に参加。自分たちが出来ることを探る。



3.情報発信だけでは主体的な活動といえない

NPOの高齢化や情報発信に課題があるという仮説を立てていたが、情報発信だけでは地域プロデューサーとしての活動としては主体性が弱いという意見を中間報告会で受けて、主体的な取り組みを探る

4.びわ湖の環境の問題は、河川をさかのぼって考える必要がある

びわ湖の環境は、びわ湖だけの問題ではなく河川を上流までさかのぼって考えることが大事だと考え、それぞれ川の流域で活躍する人たちをお呼びして繋がる場が必要と考えてフードキャラバンを実施した。

主な活動	回数など
ミーティング回数	17回
フィールドワーク、ヒアリング回数	11回
清掃活動への参加	6回
主催イベントの実施	1回
報告会の実施	1回

⑤そら湖diaryの事業内容

びわこの恵みフードキャラバン

赤野井湾をはじめ琵琶湖で学んだことは、琵琶湖を清掃するだけでは解決にならない野洲川流域の食材やモノ、コトなどをつなげ、上流から下流、琵琶湖まで、流域の関係者が集まり、対話することで協働を深め、環境を学ぶ、そして、恵みに感謝しよう

新たな方向性（コンセプト）

1.ひろがり、つながりを感じやすくするため、「森から湖」、野洲川の上流からびわ湖までと捉える

2.環境学習の機会を、これまでの教育(教えて育てる)から、共育(共感し共に育つ)にウェイトを置いたものにする。つまり、一方向からの講義形式ではなく、双方向の対話形式。尚且つ、感性に問いかけるには、「恵み」の大切さをテーマにする

野洲川上流からびわ湖までの「恵み」を生み出す人々の 取り組みを語り合い、知ることによって「つながり」を醸成するようなフードキャラバンを行う



キーワードは【下流から上流】 【恵みに感謝して】 【楽しんで学ぶ】





そら湖diary



びわ湖を愛する人たちがジャンルを超えて語り合う

フードキャラバン

2019/11/2 sat 15:00 ~

場所：第2 なぎさ公園

※雨天の場合・・・2019/11/3 sun

野洲川流域で
やってることは違っても
思いはひとつ・・・
いっしょに話ませんか？



おうみ未来塾 そら湖 diary

facebook→<https://www.facebook.com/107310884007658/>

※お車で越しの方は、駐車場をご用意いたしますのでお申し出ください。

そら湖diaryは、びわ湖の恵みを通して、関わる方々や取り巻く環境について学び発信するグループです。

実施日時：2019年11月2日(土) 15:00~17:30

実施場所：守山市第2なぎさ公園

実施内容：

10:00 ミーティング、守山第2なぎさ公園セッティング

11:00 食材準備

13:00 現地にて、配膳、他準備

15:00 参加者受付、開始、挨拶

今日の趣旨説明、食材の説明

食事をしていただきながら、各参加者の自己紹介、歓談

17:30 お開き、参加者送迎

18:30 片付け、荷物運搬、解散

1.参加してくださった方々

- ・ 守山漁協漁師 戸田直弘さん
- ・ 守山市役所環境生活部次長 筈井亨さん
- ・ 守山市役所環境生活課係長 邨田勝徳さん
- ・ 田中酒造 田中重哉さん
- ・ 甲賀木の駅プロジェクト 市川幸弘さん
- ・ 総合地球環境学研究所 栄養循環プロジェクト 石橋弘之さん
- ・ 若者コミュニティ運営、地元のまちづくり会社 深尾善弘さん
- ・ 中洲ふれあいのあかりギネス挑戦 中島香さん
- ・ すこやか隊、竹細工講師 村上瞳さん
- ・ ビワコドーターズ中川和美さん
- ・ おうみ未来塾15期 藤本都也さん
- ・ 淡海ネットワークセンター 青木さん、佐藤さん

2.上流から琵琶湖までの「恵」

- ・ 野洲川の柳の間伐材で作った木のローソク（碧いびわ湖）
- ・ 守山市内で活躍中の方々が作った陶器のランタン
- ・ 湖魚を使ったおいしい料理
 クラムチャウダー（琵琶湖のしじみ）、ビワマスフライ、うなぎ、
 クリームコロッケ（琵琶湖のエビ）、フナ寿司漬けチキン、佃煮
- ・ 野洲川周辺で収穫された野菜（滋賀農業女子）
- ・ 野洲川のよもぎで作ったパン
- ・ 野洲川の伏流水から作られたお酒（田中酒造）

3.どんなイベントになったのか

- ・ 素敵な琵琶湖の恵みの演出で納得のいくイベントとなりました。
- ・ 参加してくださった方々からも、話す機会ができたことに喜んでいただけ、お料理のおいしさに感動していただき、琵琶湖の恵みの素晴らしさを感じていただけました。
- ・ 環境学習を進めていくにあたり、そら湖diaryのコンセプトである「琵琶湖という共通の環境において 活動されている方々をつなげていくこと」の必要性を実感し、私たちの目的が一つ達成された催しとなりました。

4.第15回守山市民屋台村での展示発表

- ・ 屋台村は、すでに15回目ということで、すでに活躍されている市民活動の 団体やボランティアグループもたくさん参加されます。その場で、私たちの活動や今後の目標など知っていただく良い機会になりました。
- ・ 守山市役所の職員の方々も来てくださり、私たちの活動の説明なども聞いていただくことができました。
- ・ 他の展示やワークショップも参加させていただく中で市民活動されている方々とも交流を持つこともできました。また次回に向けて、環境に携わっている若い青年たちともつながりを持つこともでき、いずれ、一緒に何かできるのではないかと新しい出会いも得ることができました。
- ・ 自分たちで何かをしていくことも大事ですが、このような機会に展示するなどのPRをして多くの市民の方に知ってもらうことも、横のつながりを広げられ大切なことだと思いました。



6. 今後について

- ・今回参加して下さった野洲川流域で活動する方々のフィールドまで行って、活動に参加する。
- ・びわ湖に注ぎ込む他の河川でも同様のイベントを開催して、びわ湖一周でフードキャラバンを行う。
- ・それらの様子を動画にまとめ、環境学習の教材とする。

⑥（参考）活動記録

日付	内容	場所
2018		
12月1日	活動内容についての相談	ふらっとルーム
12月6日	漁船から赤野井湾の「えり漁」「淡水真珠」を視察	赤野井湾
12月8日	グループ形成後の計画書作成	県民交流センター
12月19日	琵琶湖博物館、大庄屋諏訪家を訪問	守山市内各所
2019		
1月17日	ヒアリング・フィールドワーク	守山市内各所
1月20日	サブ講座前の打ち合わせ	県民交流センター
2月11日	会議（内容確認と整理）	守山市立図書館
3月18日	夢・びわ湖の定例活動「イケチョウガイ「調査活動」への参加	守山市赤野井湾 他守山市内
5月12日	第1回相談会	ふらっとルーム
5月18日	ほたる&パークフィールドワーク	守山市内
5月20日	夢・びわ湖定例活動参加	守山市赤野井湾
5月25日	ほたる&パークフィールドワーク	守山市内
6月17日	夢・びわ湖定例活動参加・ミーティング	守山市赤野井湾・ピエリ守山
6月23日	びわ湖湖底清掃	守山市赤野井湾
6月29日	中間報告会	淡海ネットワークセンター
7月5日	赤野井湾の赤井さんと話し合い	守山市役所
7月14日	「ござっと！」マルシェ手伝い	光雲寺
7月15日	海と日本プロジェクト 海ゴミゼロウィーク参加	赤野井湾
7月28日	「琵琶湖を守る会」の地引網を見学と打ち合わせ	なぎさ公園
8月11日	打ち合わせ	大津駅カレンダー
8月22日	打ち合わせ	守山市民交流センター
9月8日	イベント依頼	野洲川、ビワコドーターズ
9月15日	相談会	淡海ネットワークセンター
9月7日	ミーティング	オンラインミーティング
10月6日	イベント依頼	田中酒造
10月7日	ミーティング	オンラインミーティング
10月15日	ミーティング	オンラインミーティング
10月30日	ミーティング	オンラインミーティング
11月1日	打合せ	ビワコドーターズ、なぎさ公園
11月2日	びわ湖の恵みフードキャラバン	なぎさ公園
11月3日	びわ湖の恵みフードキャラバン後始末	なぎさ公園
11月13日	屋台村の準備	淡海ネットワークセンター
11月24日	屋台村	守山市民交流センター



寺おこしで
町おこし



グループ名

ござっと!

「親も子どもも忙しい毎日。地域課題も大切だって聞くけど日々の忙しさに追われそんなこと考えてる暇もない。だけどどこかで一息つきたい・・・。」
がんばる親御さんの気晴らしになればいい、本音もちょっと聞かせてほしい。

いつでも、どんなところでも、
**ござ1枚あれば、
そこが集いの場所になる。**

<誰に?>

母親



役割分担のある行事への参加、ワンオペ育児、残業を切り上げての育児、習い事の負担、子の急病、ママ友と付き合い...

乳幼児のサポートは充実しているが
小学生以降の子育てに関しては配慮が
薄くなっている現状



小学生



親の気持ちのゆとりの無さに影響を受ける子ども。

<どこで?>

亀山学区のど真ん中に存在するお寺「**光雲寺**」は小学校のすぐ近くにあり立派な地域資源。
かつては人々にとって身近な存在だったのに、今はひっそり静まり返っている。
学校裏で子どもも来やすい。裏に自然豊かな山もある!

<なにをする?>

光雲寺を地域に開き、人々が訪れる場に!

お寺を中心に子育て
コミュニティを作る!

<メンバー>

代表
細江 美和子



彦根出身北海道在住

中学2年(男)・小学6年(女)の子育て中。

副代表
田中 省吾



米原市在住

近江環人。ながはま市民協働センターで勤務。

デザイン
合田 容子



東近江市在住

地域おこし協力隊3歳(女)の子育て中。

編集委員
藤本 都也



神戸在住・実家河瀬

大学2年(女)・中学1年(女)の子育て中。

会計
吉川 藍



草津市在住

滋賀県立大学4年就活・卒論で多忙。

ござっと! の活動記録



ひだまり学舎訪問



実際町を歩くと
ヒントがあちこちに

「移動式子供会」時代
「すけっと!」時代

北岡さん
退塾



MTGはなんと楽屋!
どこでもやります!



細江さん
北海道へ!



自然遊びの
池田さん宅訪問

日付	内容	場所
2018年		
11/29	グループテーマを決める話し合い	近江八幡市 旧吉田邸
11/29	既存団体へ活動内容のヒアリング	亀山学区 ふらっとDoさん
12/1	イベント型市民活動の視察	東近江市わくわくこらぼ村
12/8	グループの活動計画を立てるMTG	県民交流センター
12/20	気になる現地を視察してみる	亀山地区・河瀬地区
12/22	ご住職と初対面。団体の説明にいく	光雲寺
2019年		
1/9	モデル活動をしている既存団体視察	ひだまり学舎
1/12	まちの様子を知るため足で回る	亀山地区・河瀬地区
1/20	移動式子ども会にするか!?	県民交流センター
2/5	6歳からの家仕事「すけっと!」に変更	近江八幡市 旧吉田邸
2/8	河合アドバイザーに活動内容を相談	ふらっとルーム
2/17	目標発表会。すけっと!は良くないと...	県民交流センター
2/28	「すけっと!」から再び「ござっと!」へ お寺で洋服交換会? ファッションショー?	近江八幡市 旧吉田邸
4/30	話し合い。メンバーが2人減ることに。	近江八幡市 藤ya
5/10	ご住職へ私たちの思いを伝えに	光雲寺
5/12	第1回相談会	ふらっとルーム
5/18	光雲寺とメンバーの打ち合わせ	光雲寺・細江宅
5/20	昭和電工さんへ山を借りる件話に行く	昭和電工・細江宅
5/26	お寺マルシェにしよう!と決定する! どんなマルシェで出店者はどうする?	五個荘てんびんの里 文化センター
6/8	どんどん細かいことを決めていく	彦根市日夏町日夏里館
6/12	地域の子連れママの困りごとを探りに	彦根市子どもセンター
6/21	チラシデザインの最終打ち合わせ	五個荘支所
6/23	光雲寺訪問	光雲寺
6/24	亀山小学校へイベントの紹介と内容報告	亀山小学校校長室
6/26	チラシ配布のお願い	亀山公民館、出張所
6/29	未来塾グループ活動中間報告会	淡海ネットワークセンター
7/3	マルシェ準備と挨拶	昭和電工、光雲寺
7/5	京都新聞取材	光雲寺、亀山小学校
7/8	マルシェ打ち合わせ	日夏里館
7/14	マルシェ開催!	光雲寺
7/18	マルペンで購入した体操服を寄付	亀山小学校
7/25	フラットDOさんとの顔合わせ	亀山出張所
8/11	打ち合わせ	大津駅カレンダー
8/16	光雲寺さんへのお礼、打ち合わせ	光雲寺
8/31	池田さんと内容の打ち合わせ	あさがら野子ども自然舎
9/15	相談会	ふらっとルーム
9/22	池田さんと茂賀山視察、打ち合わせ	光雲寺・茂賀山 各小学校、昭和電工、社協
10/24	イベント説明と協力依頼	
11/8	チラシ配布と打ち合わせ	ゆとりカフェ・茂賀山
11/23	寺ヨガと裏山の自然遊びイベント	光雲寺・茂賀山



「母親って大変だね...」
と意気投合。



付箋を使ったMTGは
とてもわかりやすい。



メンバーとご住職と
初めての顔合わせ



いつも子連れでMTG



わいわいと人が集う場に!



静寂な空気が
お寺を流れる



子育て中で忙しく、普段気になりつつも
行けないようなちょっとおしゃれな
お店が約10店舗、出店。

7/14 実施

ポイント

- ・お寺の存在を地域に知ってもらうために、来やすい気軽なイベント
- ・この地区で初めての「マルシェ」開催
- ・出店料の売上で小学校へ体操服の寄付

集客方法

- ・小学校区約800世帯にチラシを全戸配布
- ・出店者のつながりでの集客とチラシ配布
- ・未来塾他チームの井上麻子さんのFMラジオで告知
- ・Facebookでの告知とシェア
- ・地域の各施設へチラシ配布
- ・京都新聞への掲載

- ・出店料1500円は出店者負担、来場は無料。
- ・マルシェ当日は70名を超える来場者が訪れました。



アットホームな雰囲気のマールシェ



近所のお年寄りもたくさん来られました。



キッズコーナーが好評！

- お寺というステキな環境で開催されていて、出会いがたくさんありました♡(30代女性)
- とても温かい素敵なマルシェでした!!(30代女性)
- すごくすごしやすいステキなイベントでとってもたのしくすごせました。(30代女性)



・京都新聞に2回にわたり掲載されました。

小学校で体操服のおさがりを募っていると聞き、お話を伺ったところ・・・

小学校で児童に着替えさせたりする時に使用する、貸し出し用体操服が不足。



小学校が厚意で貸し出しているが、PTAも生徒数不足で予算がなく状態が悪くても買換えが難しい。

なにかできないかしら・・・？

お寺の隣にある小学校(ご住職の出身校)は、お寺の裏山のもが山の遊具点検や草刈りをしてきている。

地域のお困りごとを少しでも解決

地域の人に、「寺」と「ござっと！」の存在を知ってもらう

出店料1500円のうち500円づつを集め
小学校の貸し出し用体操服を
寄付しました。



体操服くださ～い



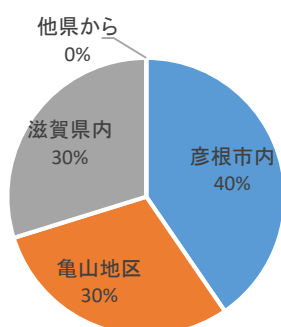
学校との
信頼関係

マルシェを終えて

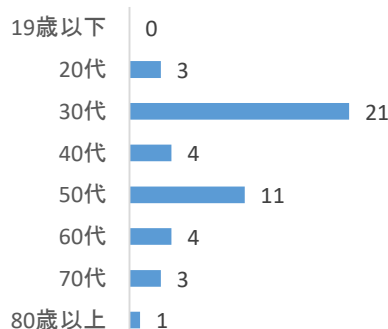
当初、マルシェを行うことと、地域を助けることの整合性が取れないと感じるメンバーもあり、地域の需要を聞き出す目的も兼ねて、マルシェでアンケートを取るようになった。これで、地域の需要がある程度は可視化し、もが山での外遊びへと繋がった。来場者のマルシェへの満足度は概ね高く、(ござっとでは行わないが)地域ビジネスとしての可能性も感じさせる取り組みとなった。

<アンケート> 回答数47

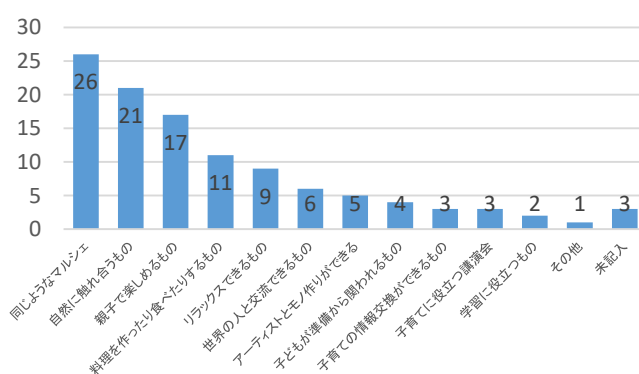
■参加地域



■年齢別分布



■今後参加したいイベント





隠れ寺の癒しヨガと 暮らしと遊びの英語を使って 裏山の自然遊び

11/23 実施



課題

光雲寺のすぐ裏にある「茂賀山」。小学校にも隣接していて、以前は子どもたちが良く遊んでいたが、今はひっそり静まり返っている。

地域資源として、この山にも注目してもらうこと
光雲寺を地域の子育て世代に知ってもらうこと

※茂賀山は、半分が光雲寺、あと半分が昭和電工の敷地。昭和電工さんにも協力を頂き、使用させていただいた。

①お母さんはお寺でヨガ

いつも忙しいお母さんに
1人の時間をゆったりと...
自分の身体と心と向き合う
癒しの時間。



②お父さんと子供は 裏山で自然遊びと英語

暮らしや遊びに使える英語を
楽しみながらお寺の裏山で、
自然と一緒に思いっきり
体を動かそう！色んな発見が
あるかも?!

③家族揃って、七輪で 季節の味を焼いて食べる

- ・しいたけ
- ・おもち
- ・焼きおにぎり
- ・マシュマロ



SHICHI-RIN

講師陣



ご住職 小西領也さん
臨済宗妙心寺派 光雲寺
名古屋市徳源寺僧堂での修行を経て、
平成29年度光雲寺住職に就任。



自然遊び講師 池田勝さん
あさから野子どもと自然舎代表
栗東市の里山でヤギと一緒に生活されている
自然遊びのスペシャリスト。



暮らしの英語 木田桃子さん
竜王町 ひだまり学舎 代表
地域と連携し、暮らしにまつわる学び場、ひだまり学舎を運営。幼少期を海外で過ごしたバイリンガルの語学で、子供たちと英語で遊ぶレッスンを
行なっている。



ヨガ講師 原口菜生さん
ヨガまる 和になり輪になり、まあるいころ
滋賀のヨガスタジオを始め、会社のサークルや地域の健康促進活動を通し、暮らしがより豊かに、
穏やかに、健やかになるお手伝いをさせていただ
いています。

イベントタイムスケジュール

10:00	光雲寺にて受付	10:00
10:10～ 11:50	お父さんと子どもは 茂賀山に移動し、 自然遊び 自然遊びをしながら 英語も...	お母さんはお寺 でヨガ 10:10～ 11:05
		休憩 5分間
		ご住職の法話と 説明 11:10～
		座禅(15分×2) 11:25～ 11:55
12:00～ 1:55	お寺のお庭に移動し、七輪タイム 火付け→焼いて食べる。	12:00～ 1:55
2:00	終了	2:00
	スタッフ後片付け	
3:00	終了	3:00

集客方法



チラシ配布

河瀬駅の学区の
亀山小学校
河瀬小学校
若葉小学校
みどり幼稚園

Facebook
での告知・シェア
(ござっと！ページ)

口コミ

地域の各拠点への
チラシ配布

彦根市役所・図書館
ファミリーサポートセンターなど

【事前申込が必要】

QRコードからの
申込フォーム

Gmailへの
メール申込

ござっととしての電話番号はなく、
お寺の電話番号を告知

参加費は、1人500円×家族の人数分。

しかし、締切日当日になっても、申込者ゼロ

問題

こちらで用意した
フォーマットでの
申し込みは0件
(申込フォーム、メール)

- ・電話窓口がお寺だけで
かけにくかった？
- ・申し込みの概要がわかりにくい？
- ・QRには馴染みがない？
- ・問合せしてまでは参加しない？

ござっと！の活動に
共感してくださって
ボランティアで
手伝ってくださった。

介護と子育てがあり
とても忙しい方なので
活動自体に参加して
いただくのは難しい。

細江さんの友人の地区内の方が窓口となって
声かけや問合せ対応してくれた。

大人9人 子ども17人 計26名の参加に

イベント当日は、近隣でも様々なイベントが行われていた日だったようだ。

また、「午前だけの参加でもいいか？」「午前だけでも500円か？」「母親も山に行っても良いか？」などなど、窓口になってくださった方へ、地域の方から様々な質問があり、チラシだけでは詳細が分からず、フォローなどが必要だったことが原因と考えられる。

メールや電話での問い合わせはなく、やはり地元の人の関わりが不可欠と感じた。

この地域では、お金を払って参加するイベントは少ないようで、「ひとり500円」という設定が高いという印象もあったようだ。今回はおうみ未来塾からの活動費があったので良かったが、今後の活動を考えると、この価格では無理で、助成金の申請などを考えていく必要がある。

やはり地元の人の関わりが不可欠と感じた

当日いらした参加者の皆さんからは
とても楽しかったと喜びの声がたくさん頂けた。

寺の参加	6
山の参加	20

寺では、ゆったりとした時間が流れ、心も体もリフレッシュ

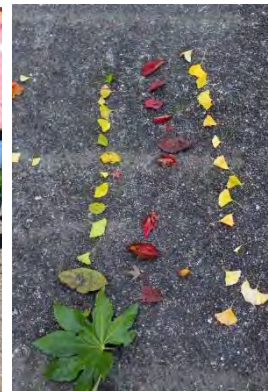


- ヨガで体のこりが改善したようです。
- 普段ゆっくり自分と向き合うことがないので、不思議で貴重な体験ができました。
- 座禅は心が鍛われました。

子どもたちが自主的に始めた
坐禅が印象的！



山では、親子で自然を感じる豊かな時間



・七輪のあと、「山イコ！」と子どもたちが積極的に山に登り、
山の上から「ヤッホー！」。寺の庭からお母さんが「ヤッホー！」と。
そんな姿がすごく感動的でした。

- 親子で楽しめた。
- 子どもは友達できたみたいです。
- 山で遊べて楽しかった。



七輪で、お腹も満たされリラックス

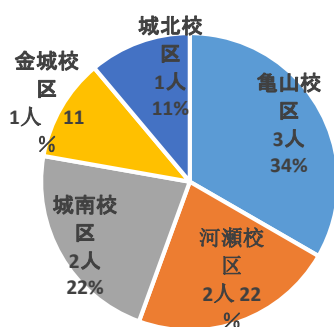
- 七輪もとても美味しかった
とのことでした。
- のんびり感がよかったです。
- また体験したいです。
- 盛りだくさんで楽しかったです。



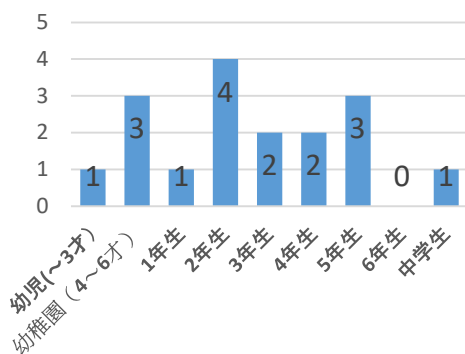
参加者からうれしいメールを頂いた。

「今年ベスト3には入る最高の1日だったよ。教えてくれてありがとう」

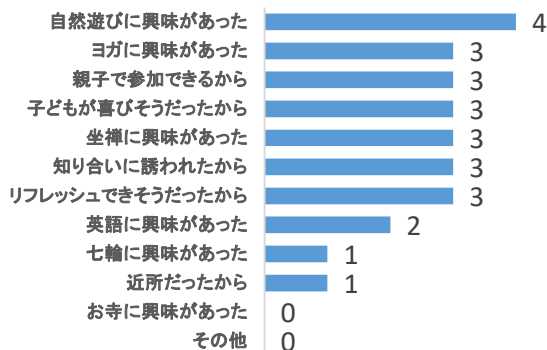
■参加地域



■子供の年齢別分布



■参加理由



ござっと! 活動のまとめと、今後について

当初の構想

<7/14>

お寺マルシェの実施

目標: 地域の協力者を募集

実施!

<11/23>

茂賀山で自然遊び

目標: 協力者をスタッフに!

実施!

イベントを開催ごとに、地域の人に活動を
知ってもらい、興味を持ってくれる人を増やしていく。

イベントを続けていながら、地域に根ざした活動に。

結果と今後

地域での協力者を見つけるのは難しく、自分たちがやりたい事をしっかり伝えてファンを増やすやり方が一番の近道に感じる。

これは、実行できたように感じる。マルシェでは、好意的な意見をたくさん頂けた。このマルシェでの活動でござっと!を知ってもらったことが自然遊びでの集客のロコミに繋がった。

メンバーの環境が変化し、同じように継続を目指すのは難しい。

塾生として活動中は、他のグループからのヘルプや助成金もあり、とても助かったが、卒塾後の活動は運営資金も含め、現在検討中。

光雲寺さんとの繋がりを続けたいので、お寺を使ったイベントは、今後も提案出来ると良い。



光雲寺ご住職
小西さんから

英会話を交えた自然遊びでは子供達がとても楽しそうで、遊び足りなかったのか、再度山へ遊びに行く姿がとても印象的でした。お寺ではヨガと坐禅で、とてもリフレッシュされており、時間に囚われないひと時を過ごされていたと思いますし、特に禅寺でしか行なえない坐禅は、皆今回が初という事でとても貴重な経験が出来たのではと感じています。なかなか身近に坐禅が出来るお寺は無いので、指導する側の私自身も坐禅の素晴らしさをほんの少しでも知ってもらえた事で、禅宗の僧侶として喜びを感じました。

参加者の方がとても喜んでいただいたとのこと、本当に嬉しいです。
天候が良かったことも大きな要素でしょうが、参加者の方が近い関係の方や少人数だったので、アットホームで顔が見える場だったこと(全体場のづくり)。お母さん、お父さん、子ども、それぞれやりたいことが楽しめる場だったこと(それぞれのニーズに答えられたこと)。お昼は七輪で火を楽しみながら、お腹いっぱい美味しい食を得られたこと(五感・食に訴えること)があったのではないのでしょうか。

私の方はプログラムとして、子どもと保護者の方が、お寺とその裏山を気になつてもらえるように進行させていただきました。五感を使って、自然の不思議さを感じたり体を動かして遊んだりすることで、とてもいい場だと感じてもらえたかなと思います。



自然遊びの
池田さんから

ござっと！ メンバーからのメッセージ



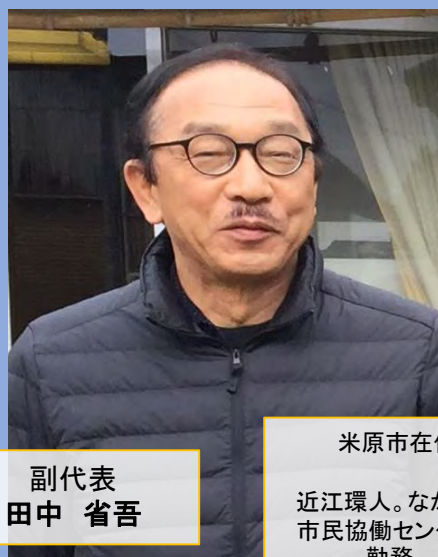
代表
細江 美和子

彦根出身北海道在住
中学2年(男)・小学6年
(女)の子育て中。

普通の主婦の私に何ができるのか？ときどきしながら未来塾の面接を受けたことが思い出される。

さまざまな壁にぶちあたれど笑顔でいれば万事うまくいくことを未来塾で習った。うごきましょう。つくりましょう。つながりましょう。もたもたしてると人生おわっちゃいます！

細江美和子



副代表
田中 省吾

米原市在住

近江環人。ながはま
市民協働センターで
勤務。

ござっと...気軽に集まれるところ。無縁社会。手の届かないところ、社会の狭間に。人と人との関係性の欠如。

おうみ未来塾... 目的を共有した地域プロデューサーの集団。それこそ、地域が主役。そこに住む人が主役。つながりを生み出すことにつなげたかった。

田中省吾



デザイン
合田 容子

東近江市在住

地域おこし協力隊
3歳(女)の子育て中。

県外から移住してきて、滋賀のことをよく知らないまま、仲間を増やしたい、滋賀のことを知ってみよう、と参加した。子育てや協力隊との両立はかなり大変だった。

地域に深く入るには、地域の窓口が必要な場所も多く、今後、地域が変化して行くには、オープンマインドの広がりが必要だと思う。

合田容子



編集委員
藤本 都也

神戸市在住・実家河瀬

大学2年(女)・中学1年
(女)の子育て中。

私はござっと！の活動のうち、30回参加した。神戸からの交通費は10万円を超え...。実家のある河瀬を離れて約30年、活動を通して、実家との往復だけでは見えなかった環境がずいぶん変化していることに気が付いた。今後の活動に繋げていければ...

藤本都也



甲賀★ムラづくりLABO



メンバー

代表	: 山本 尚路 (甲賀市)
副代表	: 帽子山 猛 (甲賀市)
広報	: 井上 麻子 (大津市)
渉外	: 井上 美雪 (甲賀市)
会計	: 今井 信 (大津市)
連絡・庶務	: 井上 絵里子 (栗東市)
編集委員	: 城田 義隆 (大津市)



甲賀市の背景

新興住宅地や工場
集積地では人口が
増えている



集落地域では
人口が減っている
+ 高齢化

人口減 + 高齢化によって…

- 地域交流が出来なくなっている
- 担い手の世代がない
- その状況を諦めている感がある

- 地元の農作物が残らない
- 休耕田が活用されない
- その状況を諦めている感がある



考えた結果…



いそお活性化計画

旧甲南町磯尾区の集落を
活性化させたい



循環型農業プロジェクト

甲賀の昔の農業（薬草／
古代米）の価値を見直し
たい



でも、発信しないと周りの人に理解されない…
なので、

甲賀まるっとラジオ

地元目線で活動を発信していきたい

結果、甲賀☆ムラづくりLABO の活動は…

活動の
三本柱

- **いそお活性化計画**
- **循環型農業プロジェクト**
- **甲賀まるっとラジオ**

の三本柱で進める
ことにしました。

これまで

「甲賀☆ムラづくりLABO」 結成！ 2018年12月8日



地域の力を借りたい！

地域に根差した活動しよう

「のうかつ」仲間を増やしたい

1年だけでなく、継続してやろう

楽しく活動しよう！

今後の活動方針と柱をみんなで確認



**塾生先輩へのヒアリング会
in 鹿深村塾
2019年1月10日**

12期生 西岡さん
14期生 田中さん



**こうか・まちカレッジとの
意見交換 in 甲賀市役所
2019年1月16日**

こうか・まちカレッジの皆様

**活動の方向性を確認
そして、動き始める…**

いよいよ地域で…

いそお活性化計画

村おこしの会さんと植樹会 2019年3月26日



磯尾区で活動されている「村おこしの会」の皆様と一緒に、
環境整備活動の一環として植樹会を行ないました。

磯尾でいくつもの場所を見つけました！



東雲舎

築180年の
元製薬の作業所
構造が特殊でした



野路

磯尾唯一の飲食店
我々の憩いの場

岩附神社

地元の神社
春に例祭あり



いよいよ地域で…

いそお活性化計画

ヒマワリ育てました！



上磯尾の休耕田を使って、ヒマワリを育てました。
磯尾の皆様のアドバイスをいただきながら、
9月に開花しました。来年も続けていきます！

いよいよ地域で…

いそお活性化計画

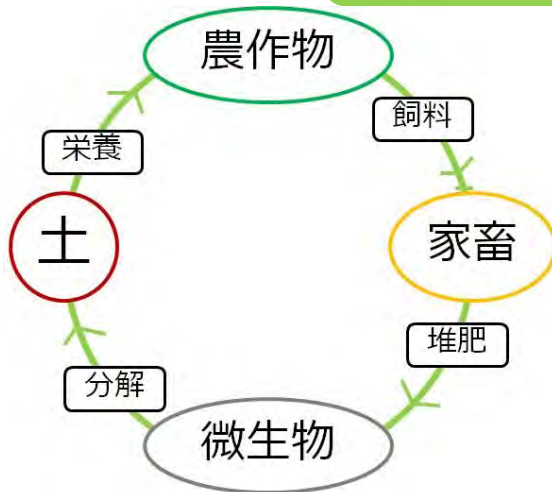
いそおde交流会、開催しました！ 2019年8月17日



磯尾の活動拠点「野路」にて、磯尾の皆様と交流会を行ないました。磯尾をテーマに熱い議論が行われました。野路を拠点にすることで、地域の憩いの場になればと思います。

甲賀の農作物の価値を再発見

循環型農業プロジェクト



昔の甲賀の農業の価値は「循環型農業」のサイクルにあるはず！

古代米と薬草茶を循環型農業の産物として提供したい



古代米ともち米の田植え 2019年6月2日

田んぼは山間部の耕作放棄地の一部を利用
農薬と除草剤は使用しない



甲賀まるっとマルシェ 2019年8月31日
薬膳カレーと薬草茶を楽しんでいただきました！

甲賀の価値をアピール

甲賀まるっとラジオ

我々の活動（甲賀☆ムラづくりLABO）を含め、甲賀で頑張っている人を我々の独自の方法でもっとたくさんの人に伝えたい、発信したい！

テレビや新聞などのメディアでは拾いきれない地域の魅力的な情報を市民の目線で発信していく

メンバーと地域の方が協同して、一緒に活動しています！

maROOM オープニング イベント

甲賀市まちづくり活動
センターの
オープンイベント。
「maROOM」の
名付け親は
帽子山さん

2019年5月19日



甲賀市長座談会

甲賀市長と甲賀
まるっとラジオの
将来の展望に
ついてお話し
しました。

2019年9月30日

その他の活動

磯尾活動だより「手手～ShuShu～」を発行しました

甲賀☆ムラづくりLABO 磯尾活動だより「手手～ShuShu～」

Vol.1

令和元年（2019年）7月15日

本たよりは、磯尾区を盛り上げるために活動する「甲賀☆ムラづくりLABO」が不定期に発行する広報誌です。どなたでもお気軽にお読みください！

私たちが「甲賀☆ムラづくりLABO」です。

滋賀県の公益財団法人「淡海ネットワークセンター」が、地域プロデューサー育成を目的として、「おうち未来塾」を主催しています。私たちは15期生として、甲賀市甲南町磯尾区を拠点に、「甲賀☆ムラづくりLABO」として活動しています。

甲賀☆ムラづくりLABO 磯尾活動だより「手手～ShuShu～」

Vol.2

令和元年（2019年）11月15日

本たよりは、磯尾区を盛り上げるために活動する「甲賀☆ムラづくりLABO」が不定期に発行する広報誌です。どなたでもお気軽にお読みください！

不定期で磯尾区に活動だよりを発行しています。
磯尾区的全家庭に配布し、読んでいただいています。

回を重ねるごとに活動に対しての意見応援が増えています。
地域の声がダイレクトに入りやすくなりました。

今後の活動は…

NPO団体としての組織づくりを整えます。

これから3年間は助成金を使いながら、事業を展開していきます。3年後に自走していけるようにします。

三事業が連携して、新しい活動を生んでいきます。

引き続き、来年以降も活動を続けます。
今後とも宜しくお願い致します。

発表、そして卒業へ

目標発表会 2019/2/17



いよいよこの日、3グループの目標発表を行ないました。グループ形成から2か月… たくさんのヒアリングをして、議論と悩みを抱えつつ、ドキドキしながら発表を行ないました。塾長やアドバイザーの先生方のアドバイスを胸に、今後のさらなる活動を組み立てました。

中間発表会 2019/6/29



目標発表会から4か月… その成果を発表する中間発表会を迎えました。当日はアドバイザーの先生だけではなく、卒塾生の方々にも聴いていただき、私たちは緊張しながらも精一杯発表しました。卒塾まであと半年。地域とのさらなる交流を深めて、活動を進めます。



2019年12月22日、
おうみ未来塾 第15期生15人が無事に卒業を迎えました。
入塾からここまで、たくさんの方に出会い、学び、喜び、感謝してきました。

本音を言えば、楽しいことばかりでは無かったはず。
それを乗り越えられたのは仲間が居たからでした。

これから、滋賀を愛する力を原動力に地域を興すプロデューサーになります。
そんな私たちを見ていてくださる全ての方に、ありがとうございました。



